

ネットワーク

KITA-NET Network 北海道に広げていこう、環境のネットワーク

●札幌市
旭山記念公園市民活動協議会
旭山森と人の会
NPO法人 あそベンチャースクール
NPO法人 ezorock
NPO法人 EnVision環境保全事務所
認定NPO法人 カラカネイトンボを守る会
環境学習フォーラム北海道
間伐ボランティア「札幌ウッドーズ」
(一社) サステナビリティ・ダイアログ
(公社)札幌消費者協会 北海道エソシカ倶楽部
自然ウォッチングセンター
定山溪ホテルの会
NPO法人 新山川草木を育てる集い
手稲さと川探検隊
NPO法人 西区ホテルの会
NPO法人 八剣山エコケータリング
NPO法人 ひまわりの種の会
北海道大学大学院 地球環境科学研究所 藤井賢彦研究室
北海道エネルギーチェンジ100ネットワーク
NPO法人 北海道海濱美化を進める会
北海道グリーン購入ネットワーク
北海道高山植物保護ネット
(一財)北海道札幌南高等学校林
NPO法人 北海道森林ボランティア協会
北海道林業技士会
真駒内川水辺の楽校
NPO法人 森林遊びサポートセンター
山のトイレを考える会

●石狩市
NPO法人 いしかり海辺ファンクラブ
いしかり森林ボランティア「クマゲラ」

●江別市
酪農学園大学 環境GIS研究室
酪農学園大学 実戦野生動物学研究室
酪農学園大学 野生動物保護管理学研究室

●当別町
当別森林ボランティア「シラカンバ」

●長沼町
河川愛護団体 リバーネット21ながめま

●下川町
NPO法人 森の生活

●旭川市
NPO法人 緑の探検隊
NPO法人 もりねっと北海道

●東川町
NPO法人 大雪山自然学校

●美幌町
ふるさと美幌の自然と語る会

●中標津町
NPO法人 道東動物・自然研究所

●浜中町
NPO法人 えんの森
認定NPO法人 霧多布湿原ナショナルトラスト
NPO法人 シマフクロウ・エイド

●上士幌町
NPO法人 ひがし大雪自然ガイドセンター

●鹿追町
NPO法人 北海道ツーリズム協会

●帯広市
NPO法人 帯広NPO28サポートセンター

●広尾町
とかちサンタランドツリーの会

●日高町
日高山脈ファンクラブ

●苫小牧市
NPO法人 苫東環境コムズ

●白老町
NPO法人 ウヨロ環境トラスト
北海道自伐型林業推進協議会

●登別市
NPO法人 登別自然活動支援組織モモンガくらぶ

●室蘭市
NPO法人 河川環境センター知利別川を愛する会

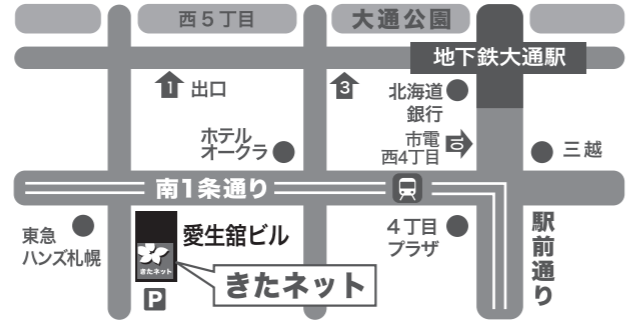
●東京都
(一財)セブン-イレブン記念財団

KITANET Network
2018年3月現在
会員数
MEMBER
正会員
60団体・18個人
賛助会員
59個人
16企業・団体

- きたネット賛助会員／北海道の環境活動を支援する企業・団体**
- 網走市廃棄物処理協同組合 / エムフォトワークス株式会社 / 五島冷熱株式会社
小南印刷株式会社 / 株式会社櫻井千田 / 公益財団法人知床自然大学院大学設立財団 / 親切会北海道支部
株式会社地域環境計画北海道支社 / DCMホームマック株式会社 / パタゴニア札幌北・パタゴニアアウトレット札幌南
株式会社プリプレス・センター / 北海道自動車処理協同組合
公益財団法人北海道新聞野生生物基金 / 一般財団法人前田一歩園財団 / 雪印種苗株式会社

- きたネットの活動にご寄付・ご協賛をいただいたみなさまです。ありがとうございます。(順不同)**
- 公益財団法人日本賃貸住宅管理協会北海道ブロック / 公益社団法人全国賃貸住宅経営者協会北海道支部
全国賃貸管理ビジネス協会北海道支部 / DCM ホームマック株式会社 / 一般社団法人札幌空調衛生工事業協会
株式会社北翔 / 株式会社ドーコン / 山本建設株式会社 / 札幌工業株式会社 / 株式会社オール / 株式会社宅建
北海道中央バス株式会社 / 石上車輛株式会社 / 北日本測地株式会社 / 株式会社ファズ / 株式会社櫻井千田
親切会北海道支部 / 株式会社セクト / 株式会社TKD サービス / 株式会社江上 / 株式会社リロケーションサービス
株式会社カンリ / しらいトランク・サポート株式会社 / 伊丹車輛株式会社北広島支店 / 丸利伊丹車輛株式会社

【NPO法人 北海道市民環境ネットワーク事務局】
〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目8 愛生館ビル5F
Tel 011-215-0148
Fax 011-215-0149
E-mail office@kitanet.org



一般財団法人
セブン-イレブン記念財団

きたネットは、一般財団法人セブン-イレブン記念財団から助成を受け、市民の環境活動を支援する「市民環境活動支援協定」を結び、北海道の自然環境を子どもたちの未来へ引き継ぐために活動を行っています。

きたネット

きたネットWeb <http://www.kitanet.org/>
ラナーズ・クーリーツァー北海道 <http://www.love-earth-hokkaido.jp/>
きたマップ <http://kitamap.net>
環境情報Blog <http://blog.goo.ne.jp/kitanet-staff>
きたネットFacebook <https://www.facebook.com/kitanet.org>

vol.06

KITA-NET NEWS 2018/03

きたネットニュース

メッセージ

MESSAGE

北海道の環境中間支援の先駆である北海道環境財団が20周年を迎えました。設立から今日まで、北海道環境財団のご功績に敬意を表します。**2008年、中間支援会議・北海道(4組織のコンソーシアム)が誕生し、きたネットも一員として「環境☆ナビ北海道」の設置・運用、「もうひとつの環境白書」の発行などの活動を行っています。**



■環境中間支援会議・北海道/環境省北海道環境パートナーシップオフィス、公益財団法人北海道環境財団、札幌市環境プラザ(指定管理者:公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会)、NPO法人北海道市民環境ネットワーク
環境☆ナビ北海道 <http://enavi-hokkaido.net/>



コラム COLUMN

きたネットで担当した学生ボランティア派遣活動が、ezorockの若者と社会活動のマッチング事業に発展。

きたネット理事
草野 竹史 (NPO法人 ezorock)

今から、13年前の25歳のときに会社員をやめて、26歳で青年環境団体の代表になりました。20代の若造がこの業界で食べていくことの大変さなど何も知らず、収入のあてもほとんどなく、勢い任せ。ありがちな若気の至りですね。

そんなわけのわからない若造を見かねてか、「事務局を手伝わないか」というお誘いを受けて、週1、2日程度のアルバイトとして、きたネットにかかわるようになります。10年以上前のことなので、知らない方もいらっしゃると思いますが、当時はきたネットに「学生環境ボランティア派遣制度」という、学生の環境活動を推進しようという助成制度があり、私はその一部を担当していました。会員団体からボランティア情報を集めて、学生に発信し、申し込みがあればマッチングし、活動終了後には旅費の精算を行うという流れで、学生とのネットワークづくりを担っていました。数年後、その制度自体は無くなるのですが、その経験は今の私の活動にも大きく影響しており、代表を務めているNPO法人ezorockでは、ボランティアツーリズムの一環として、年間

何百人という都市部の若者を北海道各地の環境活動に派遣し、現場の経験を積む機会を作り出すことにつながっています。

元々はきたネットの中で行っていた事業を、別に活動するNPOが担っているというこの流れは中間支援としての一つの成果ともいえるのかもしれません。

きたネットのような「中間支援組織」というのは、各地で活動されている団体のみさんの運営を、人、モノ、金、情報(ノウハウ)といった面から、サポートする組織と私は理解しているのですが、正直なところ、「支援」というのは簡単ではなく、具体的な成果を示すことはとても難しい面があります。私も組織を運営してはいて感じることで、お困りごとというのは、あまり自覚症状がなく、外の人から「こういうやり方もあるよ」と一言きっかけがあるだけで、組織が抱える課題に気が付くことがあります。

きたネットは、そんなきっかけを作りながら、内部・外部の多様な人たちのネットワークの力で個々の組織が抱える課題を乗り越えて前に進めてくれる組織ですから、うまく使いこなしていきたいですね。

INFORMATION インフォメーション

きたネットフォーラム2017 「北海道の生物多様性を守る、新しい力」録画公開

昨年12月9日に札幌市で開催したきたネットフォーラムの録画を公開しています。中村太士教授の基調講演、知床博物館長の山中正美氏他のみなさんによるパネルディスカッション、斜里町の玉置創司氏による「しれとこ100平方メートル運動報告会」、そして3つの分科会、計6本の録画を公開しています。ぜひご覧ください。



きたネットTV <http://kitanettv.blogspot.jp/2018/01/2017.html>

「生物多様性を守る、新しい力」満員御礼で無事終了

【12/9 きたネットフォーラム2017】

2017年は「環境保全の担い手をどう育てて行くのか」がテーマ、メインゲストは、北海道大学の中村太士教授でした。基調講演では「森・川・海・人の繋がりで、北海道の生物多様性を守る」と題して、知床の河川に多数存在するダムによって、海と陸のつながりの象徴であるシロザケ、サクラマスなどの遡上が妨げられ、また水温上昇など様々な状況変化で、生息環境が阻害されているという問題について、河川環境復元の取組み事例をお話いただきました。参考になった!という声が多かったのが、公開の壁、既存マニュアル・観念の壁、合意の壁、縦割り行政の壁という4つの壁をどう乗り越えて活動してきたかという、具体的な「裏話」でした。例えば、非公開だった会議を公開したことで、関わる一人一人が緊張感と責任感を持って発言するようになり、課題が一般に共有されて地域の一人一人が、自分ごととして関わるできるようになったそうです。

「担い手」の育成は、知恵を絞り合える、良い議論を戦わすことができる「場」をつくること。緊張と融和と実行と反省がきちんとできる環境を作れば、人は放っておいても自分で進化していく、その場を提供することが重要というお話でした。

続くパネルディスカッションでは、羅臼町観光協会の池上美穂さんから、漁業者が観光ガイドを務めることで、自然を守ることの重要性を自ら学び、環境保全の意識が高くなったというお話。知床博物館の山中正実館長からは、「担い手を雇用する場」が重要というお話がありました。行政の担当者が1～2年で異動してしまう現状の中、継続的に地域の課題解決に関わる人・組織が地域にあるかないかで、活動の力は大きく異なるそうです。一つの自治体での雇用は難しいとしても、ウトロ町と羅臼町と一緒に関わっている知床財団の例もあり、近隣自治体が共同で地域に専門家を雇用する仕組みを考えたいと提案されました。

研究者、環境団体、行政職員、農・漁業者、住民、学生、地域に関わる全ての方が進化できる「場」から、新しい力が育っています。宮島沼水鳥・湿地センターの牛山克巳さん、札幌ワイルドサーモンプロジェクトの有賀望さんをはじめ、各分科会の登壇者に「場」を作るリーダーの力を感じました。

分科会Aは、酪農学園大学実践野生動物学研究室の学生チームが運営に関わり、準備・進行、報告まで担当してくれました。参加者は老若男女のバランスもよく、最後の全体交流会、懇親会まで、新しい予感に溢れるフォーラムとなりました。



上/閉会式終了後に。みなさまありがとうございました。
左下/中村太士教授(北海道大学大学院農学研究院)
右下/全体交流会「野生動物へのえさやり問題についてのワークショップ」

申請書の書き方講座が好評でした

【9/30 市民活動助成セミナー 2017】

今年は、第一部で、共同主催であるセブン-イレブン記念財団の小野弘人さんを講師に「ここがキモ!申請書の書き方講座」、第二部で、全国対象5団体・北海道対象3団体の助成制度担当者による制度説明会、個別相談会を行いました。

助成セミナーも15回目、ここ数年は、環境分野にとどまらず、団体を立ち上げたばかり、助成申請をしたことがない、という参加者が多く、申請書の書き方講座の要望もいただいていた。今回実施した講座の参加者からは、わかりやすかった、申請にトライします、という声をいただきました。

一方、個別相談会の参加者は多くありません。具体的にこの要件でこの助成団体に出たいということだけでなく、助成担当者と話をして情報収集することは今後の活動に必ずプラスになります。助成団体が市民活動の現状やニーズを知る機会にもなります。具体的な案件がある場合は、アピールポイントの整理や、実務的なアドバイスも受けられます。ぜひご利用ください。



【2017セミナー助成団体】
一般財団法人セブン-イレブン記念財団・独立行政法人環境再生保全機構・株式会社ラッシュジャパン・日本郵便株式会社・トヨタ自動車株式会社・北海道e-水プロジェクト協働事務局・札幌市市民文化局市民自治推進室・一般財団法人前田一歩園財団
【個別相談会のみ参加】
認定NPO法人北海道NPOファンド

「ラブアース・クリーンアップ in 北海道」2018年度の活動がスタートします!



団体や企業(会社や店舗)、学校、町内会などで実施する、身近な場所のごみ拾い活動をHPからご登録ください。

身近な場所をキレイにすることは、「北海道」をキレイにすること。豊かな自然を守るための活動です。

【ごみ拾いピーチウォーク開催決定】
日/6月3日(日)
場 所/石狩市石狩浜(札幌から送迎バス運行予定)
共催・協力/ NPO法人北海道海浜美化を進める会、NPO法人ezorock、他

【2017年度実績】2017企業・団体36,988名が参加して、北海道をキレイにさせていただきました。

私たちの北海道を私たちの手で
世界一きれいな場所にしよう!



きたネット会員 KITA-NET MEMBERS



尻別川の未来を考えるオビラメの会

「南限のイトウ」個体群の復元を目指して

オビラメは、尻別川にすむイトウ(サケ科魚類)のこと。アイヌモシリ=北海道にイトウの生息する川は数あれど、「尻別川のイトウほど太い魚はいない」という誇り高い地元の釣り師たちが、アイヌ語名オペライベにちなんだ特別な尊称で呼び習わしていたのです。しかし1996年のグループ結成のきっかけは、このオビラメが名人たちの釣り針にもめっきり掛からなくなってしまったことでした。道立水産孵化場研究員だった川村洋司さん(現・オビラメの会事務局長)らと流域をくまなく踏査したものの、繁殖の痕跡はほとんど見つからず、「このままでは尻別イトウは絶滅必至」との宣告が下ります。単に自然保護を叫ぶだけではもはや手遅れ。破壊された生息環境の修復という、より困難なミッションに取り組む覚悟をメンバーたちが固めたのは、オビラメを絶滅させてはならないという強い意志でした。2001年に掲げたオビラメ復活30年計画はすでに18年を経て、イトウ再導入実験世界初成功、イトウ繁殖地保護7季連続達成などの成果を挙げましたが、2030年の最終ゴール—個体群復活を果たして解散する—まで、飛び越えるべきハードルはまだいくつも残っています。

【電話】0136-44-2472
【HP】http://obirame.sakura.ne.jp



NPO法人苫東環境コモンズ

苫東の「風土」と「資源」を地域で共有する仕組みづくり

NPO法人苫東環境コモンズは、文字通り、勇払原野「苫東」の「環境」を地域みんなが共有する「コモンズ」とみたくて、土地所有者の了解のもと自ら積極的に汗を流して利活用と地域開放を続けている小集団です。

私たちのいう「環境」は、そのまま「風土」と換言でき、その風土は人々が土地を所有する前から、実は土地・地域に付随する固有のものだったから、共有感覚の必然性はあったのです。これは北欧と同様に人口密度の低い北海道ならではの感覚でもあります。典型は雑木林と湿原、特にそこに自生するハスカップ群落で、いずれも古くからフリーアクセスのコモンズとして利用されてきました。放置される雑木林と乾燥する原野のハスカップに当然降りかかる課題に対し、年齢に応じて技術と知力を磨き、薪を作りながら美しい林と持続する環境の実現を目指します。この頃の小さな確信は「やればできる、コモンズ林業」。身近な環境改善から始めるコモンズ林業は、入口は狭いけれども奥の深いフィールドです。コモンズというキーワードがこれからの地域課題を解くカギでもあるからです。

【電話】090-6999-2765(草苺)
【HP】http://hayashi-kokoro.com

きたネットチョイス KITA-NET CHOISE

News

きたネットの活動報告です。

森林・山村多面的機能発揮対策交付金、活動の報告書が閲覧できます。



活動報告・制度説明会
(2/20 札幌会場)

冷水畔森づくりの会(仁木町)の報告より

きたネットでは、林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策交付金に関する事業の一部を、北海道森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会の委託で実施しています。2017年度は、洞爺湖町、帯広市、旭川市、札幌市で、H29年度活動報告会・H30年度制度説明会を開催しました。報告会で事例発表をいただいた12団体の活動内容を収めた報告書を作成中です。なお、2014年(H26年)度～2016年(H28年)度の報告書は、下記URLからダウンロードしてご覧いただけます。みなさまの活動の参考としてお役立てください。

北海道森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会
【HP】http://shinrin-sanson.h-green.or.jp/事業実施計画/



2018年度の「森林・山村多面的機能発揮対策事業」のご案内パンフレットができました。ご希望の方は、北海道森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会、またはきたネットにご連絡ください。

Event

きたネット2018年度の主なイベントスケジュールです。詳細はHPや、きたネットFacebookなどお知らせします。

- 6/3(日) ラブアース・クリーンアップin北海道「ごみ拾いピーチウォーク」 会場：石狩市石狩浜
- 6/16(土) 2018年度通常総会 会場：未定・札幌市内
- 9/22(土) 市民活動助成金セミナー 2018 会場：未定・札幌市内
- 12/1(土) きたネットフォーラム2018 会場：未定・札幌市内